

いるま

第47号

令和8年2月1日発行

題字・発行者

会長 吉武 覚



地域活動で フレイル予防

副会長 小見山 実

今年度本会の副会長としてお世話になつております飯能班の小見山です。本会の充実、発展のために誠心誠意務めたいと思います。

本紙の「生きがい」や「会員の声」の欄を読みますと、会員の皆様方が趣味や地域の活動、また退職後の仕事等で実際に生き生きと時間を使つている様子がうかがえます。

私自身、東日本大震災の年に定年を迎え、停電や給食停止、授業カット等の混乱の中で退職しました。

以来十数年、自治会長をはじめ、地域の行事やお祭り、スポーツ協会、地域福祉推進組織、学校応援団、子ども見守り活動等々、あまり考える余裕もなく次々と頼まれるままに役を引き受け、地域活動を続けてきました。

健康は財産です。趣味や運動、ボランティアや地域活動などにやりがいを持つことは心身の健康を保つために重要なと言われています。地域の中でも人とふれあい、地域の一員としての活動を通して元気に生活したいのです。今こそ社会参加を通じて、人とのつながりを高める時です。

実情を理解することができる退職校長の立場として、両者の連携に尽力してきました。ところで、いわゆる「団塊の世代」の八百万人全員が後期高齢者となり、高齢者の五人に一人が認知症になると⾔われる現在、私達は今後どう生活していくべきか考えてしまします。

以前、本会の「会員交流のつどい」で、フレイル予防について研修しました。「フレイル」とは、要介護前の心身の活力が低下した状態を言いますが、人とのつながりの低下はフレイルの第一段階と知りました。

天候による学校行事開催の可否のように一瞬であつた結果、学校課題解決の戦略や方略についてのよう長期に及んだりと、その内容は様々ではあります。ときに思わしくない結果を招くときもありますが、私は「反省すれども後悔せず」の言葉通り、自分を励まし、そのことを機に成長できるよう心がけております。

最善を尽くして情報収集し、様々な状況を想定して判断したのなら、悔やむ必要はない。後ろを振り返り悔やむことに時間を費やすのならば、その経験を今後の教員人



反省すれども後悔せず

入間地区小学校長会
会長 伊藤 秀一

生や人生そのものに生かせるよう、前向きに捉えよう」これは、ある先輩の校長から教えられたことです。反省することで、判断する際の視野を広げることができます。つまり判断力をアップデート（上書き）するのです。

そして、この判断の経験を仲間と共有することに繋げることができます。それが、各校における学校経営の底上げがなされ、地域の教育力の向上・強化に繋がるのです。

これまでにも、先輩校長の皆様による、緻密な情報共有によって、地域の教育力が高められ、現在に至つたのだと思います。

われわれ現役校長は、今後とも偉大な先輩方のお知恵や御経験に基づく御助言をいただきながら、入間地区の学校教育の充実と発展に貢献できたらと存じます。引き続きよろしくお願ひいたします。

(狭山市立入間川小学校)

協議会 開催される

期日 令和7年11月12日(水)
会場 ふじみ野ステラ・ウェスト



挨拶する吉武覚会長

今年度の教育推進研究協議会は、入間東部班退職校長会及び校長会が担当し、ふじみ野ステラ・ウェストで盛大に開催されました。来賓四名、小学校長三十六名、中学校長二十八名、退職校長七十三名の百四十一名が一堂に会し、三名の研究発表と研究協議が行われました。

開会行事では、吉武覚会長から主催者代表挨拶、来賓のふじみ野市長高畠博様、ふじみ野市教育委員会教育長朝倉孝様、埼玉県退職校長会会長新井俊一様からそれぞれご挨拶をいただきました。

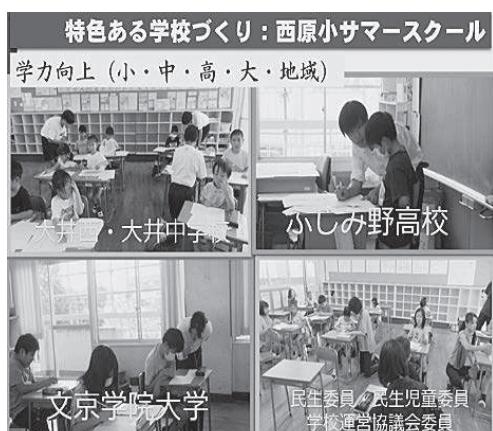
ご挨拶の内容から、「今、日本の教育について、学校現場だけではなく、国家的視野での改革が必要である」との熱き思いを実感しました。

研究発表では、ふじみ野市立西原小学校村越澄子校長から「つながる力広がる夢～地域学校協働活動～」について報告がありました。所沢市立向陽中学校吉川英一校長からは、「誰もが居心地の良い学校を目指して～子どもも大人もウエルビービングな学校づくり～」をテーマに発表がありました。ワクワクする学校、笑顔あふれる学校像を目指してすべての関係者がそれぞれの役割を果たそうと努力しているという、教育実践報告がありました。

退職校長会からは、狭山班の金子弘之氏から「馬」という題で、狹山市乗馬センターでの馬の住まいを整えるという仕事を通した「チャレンジを忘れない」ことの大切さについて発表がありました。

最後に西部教育事務所長小林美音様より、つながること、それを積み上げることの大切さ。校長の学校経営に対する愛情の深さ。ウェルビーイングは継続する幸せ。居心地の良いは、存在すること。現職はミクロな視点のみとなるが、マクロな視点で触れていただいた。教師は、子どもの将来を思い描ける素晴らしい職業等、指導講評をいただきました。

(文責 入間東部班 齊藤宏)



「つながる力広がる夢」
(地域学校協働活動)
ふじみ野市立西原小学校
校長 村越澄子

一 はじめに

地域・家庭・学校の協働活動を支える仕組みとして、ふじみ野市では学校運営協議会と地域学校協働ネットワークを設置し、あつたかな共育を目指している。それを受け「ひとみかがやくあつたかな西原小」を本校の目指す学校像としている。

二 地域学校協働活動の魅力

(一) 目指す学校像が現実に

地域学校協働活動を進めるうえで、学校運営協議会を活用して課題を明確化し、関係者と連携して取り組むことは意義深い。具体的な課題と検討事項を整理し、学校

「書く」ことが課題の一つである「書く」ことの楽しさ」を味わい、教師自身も書く視点、評価する視点を学び、質の高い授業を構築しつつある。

(二) そこには必ず笑顔

「来年は中学生として教える側で参加したい」(本校六年生)、「地域の子どもとふれあうことで自分自身が成長できた」(高校生)、「地域全体で子どもを育てるという実感がもてた」(地域の方)など、「サマースクール」の感想があつた。双方の笑顔が見られた成果は大きいと実感している。

三 おわりに

地域学校協働活動は、学びの場が地域の方々のつながりから、自分も誰かの力になりたいという夢が広がっていることに大きな意義があると考える。

「彩の国教育の日」協賛

教育推進研究

「誰もが居心地の良い

学校を目指して

（子どもも大人もエレベーティングな学校づくり、

所沢市立向陽中学校

校長 吉川英一

本校の目指す学校像は、「誰もが安心して過ごせる学校」です。四月一日の職員会議でワークショップを実施し、世代間差のある職員間の考え方を共有し、目指す方向性を定めています。テーマはもちろん学校教育目標や目指す学校像、生徒像に留まらず、研修テーマのキーワードについて職員同士が相互理解することを経て、指導の方向性をそろえたないと考え、取り組んでいます。



体育祭閉会式で全校生徒が肩を組み校歌を歌う

学校教育目標や目指す学校像、生徒像に留まらず、研修テーマのキーワードについて職員同士が相互理解することを経て、指導の方向性をそろえたないと考え、取り組んでいます。

また、本校の研修テーマは「居心地の良い学校」がキーワードとなっています。この言葉は目指す学校像に直結するものです。大きなテーマですが、職員はどのようにアプローチするかを一人一人で考えました。その中で「居心地の良さ」は、まず人それぞれであること、「誰も」とは生徒だけでなく教員や保護者も入っていることを共有しました。そして、誰がどのようにテーマにアプローチしているかを可視化しています。テーマに迫るために、「生徒が主役」で「生徒と創る」ためには、教師と生徒、生徒同士の「対話力」

を向上させ、共創造を目指すための研修に取り組んでいます。こうした取組を生徒や保護者へ発信して共に学ぶ機会を作つたり、ことあるごとにキーワードを提示したりしてきました。そうしたことを探けていくうちに生徒の中からキーワードを意識した発言や、生徒が主体的に考えた取組が増えました。体育祭の開閉会式の取組では、この二年で、生徒が考えたオリジナリティとユーモアあふれるものに変わってきたことは、生徒にとつても職員にとつても進むべき方向や、やるべきことが見えた気がいたします。これからもそうした取組を増やすことで、「居心地の良い学校、居場所のある学校づくり」を推進してまいります。

を向上させ、共創造を目指すための研修に取り組んでいます。

「馬」

退職校長会
狭山班 金子弘之

①はじめに

令和六年二月発行の会報に、「やりがいは生きがい」の表題で投稿した「狭山乗馬センターでの馬の世話をする仕事」の続編の発表になります。

緊急事態宣言明けの令和二年七月からスタートした一般社会での経験や得た知識の報告です。

二 仕事内容

早朝五時半過ぎから開始です。

清掃用具（台車・スコップ・

フォーク・竹箒・熊手等）

馬具（無口・口かご等）

①担当の四頭の馬の馬房掃除

②ボロ（馬糞）や尿の状態から、馬の健康状態の確認

③厩舎や鞍倉庫等の施設の清掃

④ゴミ出しをしながら周辺確認

大量の汗をかく程の作業ですが、馬に癒されながらマイペースで進めています。

三 馬について

①品種

・軽種 スマートな体型で軽くて素早い動きが特徴です。サラブレット等

・中間種 溫厚な性格で丈夫な馬です。クオーターホース等

・重種 大型でスピードはないが力強い一トン前後の馬です。



無口をつけて外に出ます

②性別

・セン馬 去勢している男の子

・牝馬（ヒンバ）女の子

・牡馬（ボバ）男の子

・毛色

・鹿毛（かげ） 黒鹿毛（くろかげ） 栗毛（くりげ） 栲栗毛（とちくりげ） 白毛（しろげ） 芦毛（あしげ） 青鹿毛（あおかげ） 青毛（あおげ） 斑毛（ぶちげ） 月毛（つきげ）

四 おわりに

午前十時前後に終了し、帰宅して一日がスタートします。やはり「やりがいは生きがい」。

晴耕雨読こそ第二の人生

鶴ヶ島 田邊 宏



畠は、楽しい

「畠は楽しいなあ」今、毎日この言葉を妻に言っている。もう口癖になつていて。六十四歳できつぱりと仕事を辞め、その後は雨の日以外多くの時間を畠仕事に費やしている。定年までは、畠とはほぼ無縁だったが、週三日の仕事の合間に自宅近くにある妻の実家の畠で野菜を作り始めるようになつた。

最初は、手作業で耕作しながら買ってきた苗を植えて、それなりの収穫に満足していた。しかし、すっかり仕事から離れると、「もつと本格的にやりてえなあ」という思いが強くなり、思い切つて小型

の耕運機を購入した。これは快適だ。二アールの畠もあつという間に耕せる。

それからというもの、作る種類も今までに比べ格段の差となつた。それだけではない。種蒔きから栽培が中心となり、金額的にも格安。そして、さらなる探究心も脈々と湧いてきた。

雨の日は、ネットや書籍でそれぞれの栽培方法を調べ、色々試すようになつた。だが、うまくいくものもあれば、失敗も数限りなくあります。またしてや、この数年の酷暑とも言える暑さで、なかなか思い通りにならない。しかしながら、それでも面白い。たとえば、子どもと同じように、同じ種類のものでも、成長が早いやつ、遅いやつ、暑さにも耐え抜くやつ、負けてしまったりといったように、それぞれに個性がある。

そして、何といつても楽しいのが収穫である。さらにもつと楽しいのが、これまたネットやテレビの料理番組を参考に、自ら料理することだ。妻には、「脳トレ脳トレ」と、おだてられながら、妻や子ども、孫に「美味しい」と言われ、ますます団に乗る自分がいるが、またこれが、大きな生きがいでもあるのだ。

住んでいる地域と生まれ故郷、そして教え子に生かされて

入間 桜庭 昌吾

大学進学のため十八歳で故郷岩手県を出てから六十年余りです。偶然出会った児童・生徒と力一

杯楽しく三十数年仕事ができた事が今幸せに生きています。還暦を超えた教え子達と毎年クラス会と称して杯を交わすこと

が一番の幸せな時でもあります。飽きもせず昔を語つて楽しんでいます。

生まれ育つて、多感な青

生きがい

春を送ったふるさとは、良いこと、悪いこと、事あるごとに思い出し、進む道を示唆してくれました。後期高齢になつても、ふるさとの山、川、海の景色が益々色鮮やかに脳裏に浮かびます。今もふるさと会会长としてふるさと出身者の交流とふるさとの隆盛を目指して活動をしています。ふるさとの海の幸、山の幸、川の幸、農産物を味わう会を毎年開催し、参加者の輝く目を見るのがうれしいことです。

教職を退職してからは、今日まで地域や入間市の自治会活動などに力を注いでいます。地方から出てきて気持ちよく住まわせていました。地方から出でている事にいつも感謝しています。

参考に、自ら料理することだ。妻には、「脳トレ脳トレ」と、おだてられながら、妻や子ども、孫に「美味しい」とと言われ、ますます団に乗る自分がいるが、またこれが、大きな生きがいでもあるのだ。

私は、ふるさと、教え子、住んでいる地域との繋がりが、私の原動力です。



入間市 おとうろう祭り（区民祭り）



初任給で買った全集



『斎藤喜博全集 全十七巻』 国土社

川越 平岡 健

私は、昭和五十七年に川越市の中学校に初任者として着任した。五年生の担任となり、日々の授業に、子ども達の対応にと奮闘していた。

そんなある日の放課後、職員室に本の販売に来ている業者の方から「先生、こんな本いかがですか」と声をかけられた。そのチラシには誰の全集かは忘れてしまつたが、十万円を超える定価が記さ

れていた。初任の私には到底買えない金額であり興味もなかつたことから、大学で勉強した実践家の名前を思い出し、「林竹一か、斎藤喜博があれば買つてもいいかな」とど、適当に返答した。ところが、思いもよらないことに「斎藤喜博の全集ならちようどあります」と力強い声で返ってきた。こうした成り行きで、私は『斎藤喜博全集』を初任給で買うことになった。

今思えば、この全集が教員としての各項目で私の心の支えとなつた。新米教師の時は「授業入門」、研究主任になつた時は「授業研究」「島小の授業」、指導主任の時は「未来につながる学力」、校長の時は「学校つくりの記」などなど。

「悪い条件の中でも教師の力でこれだけのことができる」ということを、はつきりと示してみる必要がある。「自分たちの腕をそこまで磨いていく必要がある」の言葉は、今でも私の心に残っている。

退職した今、これらの書物を改めて紐解きつつ、今の教育に思いを馳せていく。



十月十一日（土）午前十時より、ウエスター川越にて、交流のつどいが会員五十一名の参加を得て開催されました。

◆講演内容の要旨

講師 宮澤新樹氏

詩人 宮澤章二氏の次男。埼玉

詩人会理事長、さいたま市副

教育長、大宮区長等を歴任。

演題 「詩人 宮澤章二の世界

青少年に向けたまなざし」

一 宮澤章二氏の生涯・作品

かけた生き様が語られました。

四季派の影響を受けた自由詩、

NHK「みんなのうた」の歌詞をはじめとする童謡合唱曲、流行歌・

市歌・社歌等の作詞、県内全域をカバーした「埼玉風物詩」二六四編、新聞への詩の連載や童話の執筆と多岐にわたって活躍。

二 詩「行為の意味」

三十年間にわたって毎月中学生向け冊子に青少年を励ます詩を連載した。特に、詩「行為の意味」：自分にも他人にも「こころ」は見えない：けれど「こころづかい」は見えるのだ。それは人に対する積極的な行為だから：」は、東日

「会員交流のつどい」 報告

幹事長 飯島晴美



真剣に語る宮澤氏と聞き入る会員

以上の校歌の作詞をした。その際、各校が持つ微妙なニュアンスの違いをどのように表現するかに力を注ぎ、必ず学校に出てかけ学校を自分の目で見、校長の話を聞き、学校名を詩の中心に使うのが作詞スタイルであった。

四 まとめに、詩「自分の一步」

「他の人より一步先を歩くから」といつて、他の人より優れているとは限らない。他の人より一步後歩くからといって、他の人よりも劣つているとは限らない：」講演後、この詩を使って講話したと語っていた会員も複数いた。

会員の声

川越天宮



妻に「二回めの子育てをして
いる感じだね」と言つたところ、
「あなたは一回は
してないんじやな
いの」と言われて
しまい、私は苦笑
いをするしかあり
ませんでした。

域（川島町）にて教育に携る役職を頂き、学校訪問等で教育現場に足を運ぶ機会を頂いております。我が家は、私達夫婦と息子夫婦、三歳になる孫との五人で暮らしています。そのため、孫の面倒は私達夫婦で見ることが多くなっています。保育園の送迎、食事や入浴の世話、寝かしつけなど、子育ての大変さを今になつて実感しています。しかし、孫と過ごす時間は、何ごとも代えがたく、私の元気

教員として三十八年、会計年度職員として六年、計四十四年間の公務員生活を昨年三月に終しました。現在は約一ヘクタールの田圃(ばたけ)で米作りをしています。また、地

二回目の子育て…?

浮世絵の巧みさにため息

所沢
高野

大河ドラマ「べらぼう」を見て
いる方も多いと思います。江戸時
代中期のメディア王 蔦屋重三郎
の物語です。

東京国立博物館では四月から六月まで「葛屋重三郎展」が開催されしていました。

展示されていた浮世絵はトヨタにも出てくる歌磨や写楽の大首絵をはじめ当時の作品をたくさん目ることができました。

あらためて鑑賞する浮世絵は、女性の髪の細やかな彫り、雲母摺りなどの摺りの妙技など当時の版画職人の精緻な技術を結集した作品にため息ばかりが出てしまいました。また、黄表紙本や狂歌集など江戸時代の町民文化の高さが見てとれるものでした。

ゴッホ展や印象派展などたくさんの美術展が開催されています。どうぞ足を運んでください。

「退職校長会の入会勧誘」

入間東部 山田幸次

校長室で

入間野口隆司

旧晴海鉄道橋を尋ねて

猶山山口哲司

九月十八日の新聞に「旧晴海鉄道橋夢の変身」という記事が目に付きました。中央区と江東区に架かつていた廃線が整備され、春海橋公園の遊歩道として生まれ変わりました。翌日から歩けるとのことで、早速行ってみました。

線路跡にウッドデッキを敷き詰めた『線路のある廊下』で、廃線が遊歩道に……何とも羨ましい。この湾岸地域は、貨物列車のしかも蒸気機関車がよく走っていた

所です。今ではその後の埋め立てなどで地勢は大きく変わり、かつての場所がどこだつたのか分かりません。幼いころ家の前の道路を越えて、住宅街を過ぎた広い空き地の視界の先にあつた貨物列車の記憶は、鮮明に残っています。

廃線を搜して、はるか遠くの記憶を辿つてみたい。そんな探検で

きる範囲で協力して欲しいと願い
つつ勧誘しています。

多くの先生から入会を快諾して
いただきました。お陰さまで会員
の力で活動が実施できています。
定年延長ですが、六十歳を境
に、学校現場から離れる先生がい
ます。主幹教諭や初任者指導教員
を務める先生、引き続き校長職を
続ける先生と、その生き方は様々
です。

この状況の入会勧誘は、微妙で
非常に難しく厳しい状況です。

会員の減少は大きな課題です。
本会と各班の事業や内容の見直
しが必要でしょう。より魅力ある
退職校長会が会員の確保に繋がる
と考えるのですが。

日々輝学園高等學校校長を終
え、現在は顧問として勤務してい
ます。校長としての重圧もなくな
り、気持ちも楽になりました。

昨年度の小中高不登校児童生徒
数は全国で四十万人を超えてい
ます。私は主に県西部の中学校を
担当し、校長先生方や先生方と不
登校生徒の現状について話をする
機会がたくさんあります。多様化
する生徒の指導は大変ですね。

校長室に入ると、そこで目にす
るのが歴代校長の肖像写真です。

在校長室で
入間 野口 隆司

九月十八日の新聞に「旧晴海鉄
道橋夢の変身」という記事が目に
つきました。中央区と江東区に架
かつていた廃線が整備され、春海
橋公園の遊歩道として生まれ変わ
りました。翌日から歩けるとのこ
と、早速行つてみました。

線路跡にウッドデッキを敷き詰
めた『線路のある廊下』で、廃線
が遊歩道に…何とも羨ましい。

この湾岸地域は、貨物列車のし
かも蒸気機関車がよく走つていた
所です。今ではその後の埋め立て
などで地勢は大きく変わり、かつ
ての場所がどこだつたのか分かり
ません。幼いころ家の前の道路を
越えて、住宅街を過ぎた広い空き
地の視界の先にあつた貨物列車の
記憶は、鮮明に残っています。

廃線を搜して、はるか遠くの記
憶を辿つてみたい。そんな探検で

お世話になつた先生のお顔を拝見
すると懐かしい思い出が甦つてき
ます。歴代校長先生方がこの校長
室で様々な問題や課題に悩まれ、
ご苦労されたのだろうと思うので
す。ある校長先生が、「この課題
を○○校長先生ならどう解決する
のかな」と尋ねてきたことがあります。
私の回答を求めているのか、私も尋ねてみたいで。

もしてみようかと思つています。
さて、明日はどこへ行こうかな。

老いても青春

坂戸 小川 一信

サンデー毎日の生活になつたら
きちんと習いたいことがあつた。

退職して十六年、私の年代を

ビートルズエイジとも言う。高校
時代、当時は不良の楽器と言われ
たギターに夢中になつた。そして
若さの勢いで近所の仲間五人でバ
ンドを組んだ。懐かしい青春の思
い出である。

あれから約五十年、あの時の火
種はまだ残つていた。退職後の仕
事も一段落した十年前、ギター
教室の門を叩いた。「少しさはでき
る」、確たる根拠もない自信で入学
したが、初日で出端をくじかれた。
やればやるほど難しく、「諦めない
こと」と自分に言い聞かせ、悪戦
苦闘の日々になつてゐる。それが
何とも楽しく、老いても青春であ
る。

応援へ感謝

飯能 中村 力

退職して八年、現在は飯能市教
育員会にお世話になっています。

「知識は貯め込むのではなく栄
養にせよ」という言葉はご存じの
ことでしょう。将来の予測が困難
な時代と言われている中、市民の
皆様が生涯にわたり輝くよう、そ
の栄養となる支援の実現を目指し
ています。退職校長の皆様にいた
だいているたくさんのご支援も、そ
の力となっています。

教育行政を取り巻く状況は、
年々厳しさを増しています。学校
を取り上げてみても、限りある時
間の中で先生方には、十分な教材
研究が必須な主体的・対話的で深
い学びの実践、不登校児童生徒へ
の適切な対応など、様々な課題を
解決するために日々奮闘いただい
てているのが現状です。慢性的な教
員不足も否めません。

今後も皆様のお力添えをよろし
くお願いいたします。

三十五年ぶりの再会

鶴ヶ島 小峰 貞夫

先日、自分が三十歳の時に担
任した生徒の同窓会に呼ばれまし
た。事前に卒業アルバムを見てお
くことも考えましたが、白紙で臨
もうと思いました。三十五年ぶり
でしたが、あまり変わっていない
人、大きく変わった人、様々です。

出でてきたり、ちょっとしたエピ
ソードで瞬間的にその時の情景ま
で鮮明に浮かんできます。人の記
憶とは不思議なものだと感じま
す。また、授業の話になり、私の
話した内容も覚えており、その内
容でもう一回授業をやらせてほし
いと思いました。進路の面談では
責任の重さを痛感しました。懐か
しさと恥ずかしさのひと時でした
が、この職業の素晴らしさを感じ
られる時間でした。今、非常勤講
師をしていますが、このことを思
い頑張つていこうと思っています。

今、思うこと

川越 吉田 一彦

現役三十七年、市教委でお手伝
い三年でリタイアして五年近く。
還暦を過ぎ、体調や数値を気にし
ながら、今は地元で順番に回つて
くるJAの農家組合長、祖父とそ
の弟の戦死による遺族会の地区評
議員。さらに退職校長会の地区理
事を担当。そして、実家の管理や
除草、剪定等の環境整備と、実母
を介護する妻の支援をしながら、
あれこれとあたふたした毎日。本
当に時の流れの早さを実感する。

そんな中、最近ふと思いついた
のは、「置かれた場所で咲きなさ
い」。当時感銘した本の内容から、
今置かれた状況をより良くするに
は、自ら進んで行動し、自分の良さ
を發揮して、笑顔で自分の花を咲
かせて生きることが周囲の人も幸
せになることになるという筆者の
素敵な生き方を、今後の参考にと
りたいと思います。

退職後の心豊かな歩み

所沢 田中 和貴

退職後、初任者指導、学校経営の
相談役として五年が過ぎました。
長年の職務から解放され、心の
過ごした日々を思い出しながら創
作活動に励んでいます。様々な所
に足を運び、静かな時間が過ぎゆ
く中で、自然の光の移ろい、風の
音、季節の色や形と向き合う時間
は、かけがえのないものとなつて
います。現職時の経験が、今は表
現の糧となり、新たな創造の力と
もなっています。またこうした休
日のひと時は、生活に彩りを添え
心を整えてくれています。

あらためて、社会が変化し、便利
さや効率さが重んじられる中で創
造といった営みが、人の心の豊か
さや幸せに大きな力となつていて
と実感しています。

今後も何気ない生
活の中で、新たな変
化や発見を楽しみ、
心豊かに過ごしてい
きたいと思います。



作品の窓

写真



「黒部峡谷鉄道」
日高 大川戸 浩



「古都に響く馬車の蹄」
所沢 村川 裕昭



「黄葉の中を行く」
川越 水谷 薫

「帰り道」 飯能 佐藤 信弘



「初秋の千畳敷カール」 狹山 江田 宏樹



「秋の鎌北湖」 毛呂山 飯島 正康

本会報の執筆者の皆さん、そして「作品の窓」にご出品くださった皆さまからは、さまざまな気づきや学びを頂戴いたしました。これらの経験は、入間地区退職校長会会報委員会の活動に参加したからこそ得られた、大変貴重なものだと感じております。

とりわけ編集会議では、原稿を読み合いながら意見を交わす中で、多様な視点や考え方につながりました。こうした温かなやりとりは、会報づくりをより深く理解する助けとなり、自分自身の文章表現を見つめ直すよい機会にもなりました。

これからも、この活動で得た学びを大切にし、読み手に寄り添う会報を目指して、ささやかながら工夫を重ねてまいりたいと思います。(丸山)



編集後記